

子会社「DEMI KOREA CO.,LTD.」がテジョンスタジオ開設

7月、当社の子会社で、韓国におけるデミブランド頭髮化粧品品の製造・販売を行う「デミ コリア(本社:ソウル特別市)」が、「テジョンスタジオ」を開設いたしました。

韓国で5番目の大都市である大田(テジョン)広域市は、人口約150万人の科学技術都市として知られ、国策副都心として発展が見込まれています。「デミ コリア」としてはソウル、プサンに続くスタジオで、主にテジョン地区の美容室への教育提供拠点として、実技講習にも対応できるシャンプー台やセット面といった美容室と同様の設備を備え、さまざまな講習の開催をはじめ、撮影会場や会議室としての貸し出しも行っていく予定です。当スタジオ開設により、「デミ コリア」の業容拡大はもとより、韓国における美容師の技術・知識の向上、美容文化の活性化にさらなる貢献を果たしてまいります。



約90名を
収容できる
講習スペース



ヘアケアブランド「FLOWDIA」全面リニューアル

化粧品事業「デミ コスメティクス」では、2011年より発売しているプロフェッショナル向け主力ヘアケアブランド「フローディア」を、全面リニューアルの上、9月4日に新発売いたしました。

新「フローディア」は、「美しい自然な艶髪でありたい。毛髪ダメージを効果的にケアしたい。」という永遠のテーマを叶えるため、研究開発に7年をかけた渾身の自信作です。これまでの常識を覆す深刻な毛髪ダメージを発見し、医学発想の新たなケアシステム「バルネイドシステム」を開発、毛髪のダメージ部分だけに補修成分が反応してバルーン状に定着することで、ベタつきのない髪本来の質感を実現いたします。ホームケアでは4タイプのシャンプー・トリートメントと、3タイプのアウトバストリートメントをラインナップ。サラサラと毛先までずんととまると、新しい質感の艶髪を叶える商品です。



バルーンをイメージした、丸みのあるボトルデザイン

株主優待品のご案内

当社では毎年、12月31日現在で当社株式1,000株以上保有の株主様に一律で、株主優待として当社のヘアケア商品を贈呈しております。今春は、世界中を旅しているように香りを楽しめる「デミ コスメティクス ヘアシーズンズ アロマシロップス サマーバージョン」のシャンプー・ヘアトリートメント・リフレクシャの3点セット(メーカー希望小売価格5,800円(税別))をお届けいたしました。来春の商品は未定ですが、2018年4月上旬に発送予定です。どうぞご期待ください。

▶ 今春の優待品
「ヘアシーズンズ
アロマシロップス
サマーバージョン」



会社概要 (2017年6月30日現在)

商 号	日華化学株式会社
本社所在地	福井県福井市文京4丁目23-1
創 立	1941年9月15日
資 本 金	28億9,854万5千円
従 業 員 数	1,455名(連結) 596名(個別)
事 業 所	本社／総合研究所・デミ毛髪科学研究所 支店／東京・大阪・名古屋・北陸 営業所／仙台・広島・福岡 工場／福井(化粧品) 鯖江・関東・鹿島(化学品) 物流センター／鯖江 デミ ヘア サイエンス スクエア／東京・大阪・名古屋・福岡
国内関係会社	●山田製薬株式会社 ●コスメラボ株式会社 ●イーラル株式会社 ●大智化学産業株式会社 ●江守エンジニアリング株式会社 ■ソルベイ日華株式会社
海外関係会社	●日華化学研究(上海)有限公司 ●DEMI(BEIJING) INTERNATIONAL TRADING CO.,LTD. ●香港日華化学有限公司 ●DEMI KOREA CO., LTD. ●ニッカ U.S.A., INC. ●ニッカ KOREA CO., LTD. ●PT.インドネシアニッカケミカルズ ●日華化学(中国)有限公司 ●台湾日華化学工業股份有限公司 ●STC ニッカ CO., LTD. ●ニッカ VIETNAM CO., LTD. ●広州日華化学有限公司 ●連結対象子会社 ■持分法適用関連会社

株主メモ

事 業 年 度	毎年1月1日から12月31日まで
定 時 株 主 総 会	毎年3月下旬
基 準 日	定時株主総会・期末配当 毎年12月31日 中間配当 毎年6月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内1丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8-4 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電 話 照 会 先	フリーダイヤル 0120-782-031 取次事務は三井住友信託銀行の本店および全国各支店で行っております。
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部 名古屋証券取引所 市場第一部
一 単 元 株 式 数	100株
証 券 コ ー ド	4463

【住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について】
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座を開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行にお申出ください。
【未払配当金の支払について】
三井住友信託銀行にお申出ください。

表紙写真・イラスト説明 ▶

- ①NICCA イノベーションセンター 外観イメージ
- ②デミ コリア スタッフ(テジョンスタジオにて) ③「ディアルミエ」
- ④日華化学(中国)スタッフ ⑤新フローディア イメージ

今回、4年振りに
デザインをリニューアル
いたしました!



日華化学の“いま”をダイレクトに伝える

GLOBE グローブ

第104期 第2四半期 | 事業報告

2017年1月1日~2017年6月30日

vol.33

業績予想を上回った上半期 新たな事業の芽を下半期以降の成果に。



事業概況のご報告
TOP MESSAGE



GLOBAL REPORT
初の外国人取締役誕生
中国戦略をさらに加速



NEXT INNOVATION
ナノダイヤモンド系透過型スクリーン
「DiaLumie®」

財務・株式の状況
TOPICS



これからも、ずっと、輝く未来。
Activate Your Life

日華化学株式会社

株主の皆様へ



代表取締役社長

江守康昌

株主の皆様におかれましては、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2017年12月期（第104期）第2四半期決算についてご報告申し上げます。

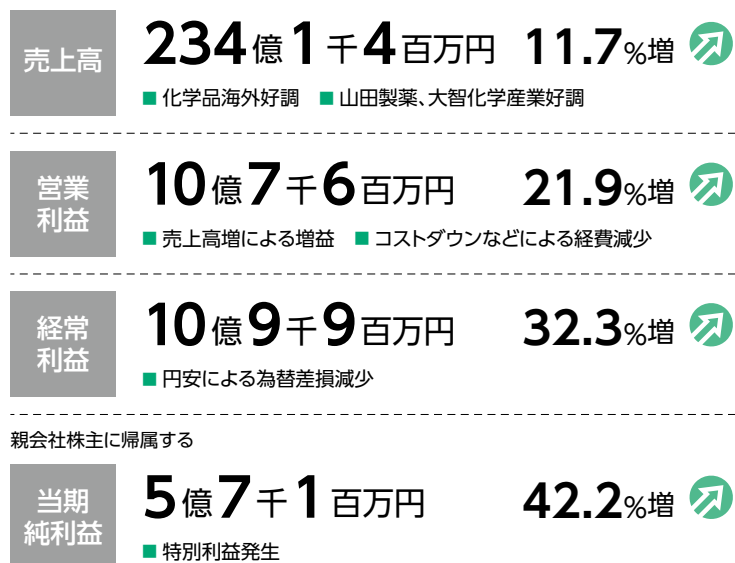
当第2四半期連結累計期間（2017年1月1日～2017年6月30日）におけるわが国経済は、企業業績が内外需要の持ち直しを受けて好調に推移していることに加え、個人消費にも雇用者数の増加などを背景とした持ち直しがみられるなど、緩やかな回復基調で推移しております。海外においては欧州市場が景気回復基調にある一方で、中国の景気減速や米国の政権運営の停滞感などによる世界経済への影響が懸念されるなど、先行き不透明な状況が続いております。

こうした経営環境のもと当社グループは、積極的な事業活動を推進した結果、化学品事業においては海外および半導体ウェハー市場向け薬剤が、化粧品事業においては製造受託事業および韓国での販売がそれぞれ好調で、増収増益となりました。

新中長期経営計画をスタートした最初の半期としては順調に推移いたしましたが、これに気を緩めることなく引き続き各課題に取り組み、経営目標達成に努めてまいります。

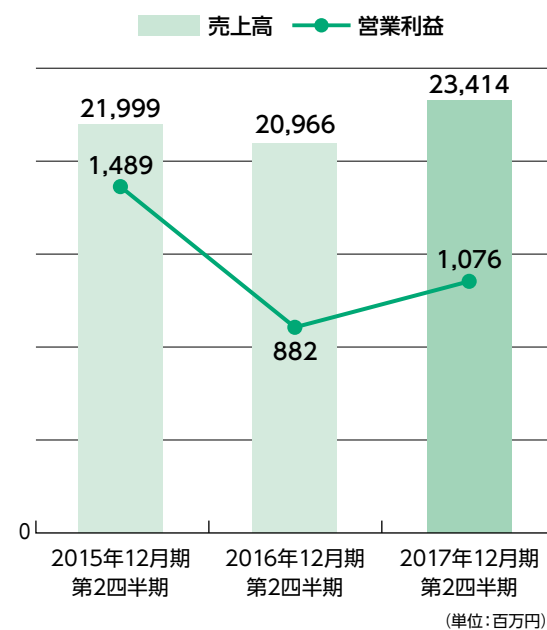
株主の皆様におかれましては、今後も引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

▶ 2017年12月期（第104期）第2四半期決算概況

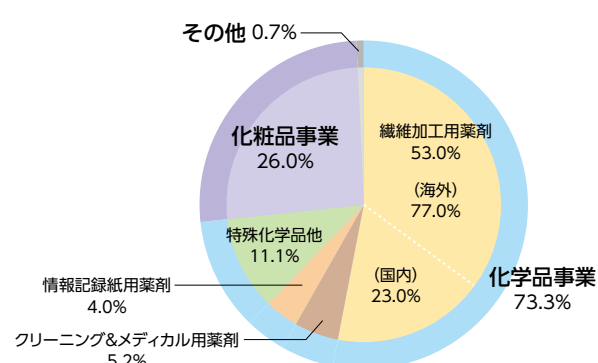


※上記はすべて連結の情報です。※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。※%表示は前年同期比です。

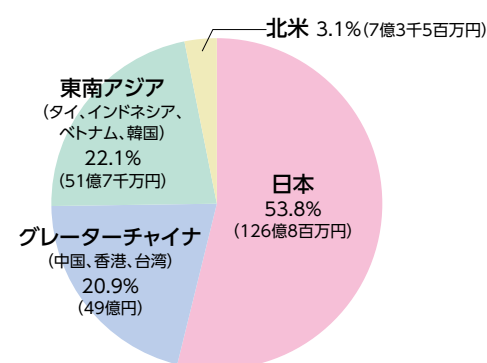
[売上高・営業利益の推移]



【事業別売上高比率】



【地域別売上高比率】



化学品事業



繊維加工用薬剤

繊維加工の一連の工程（製織・製編から精練・漂白・染色・捺染・仕上まで）を網羅する多様な薬剤

情報記録紙用薬剤

インクジェットプリント用薬剤や、ラベル、チケット、タグ、レジスター紙等の高性能感熱紙に使用される顔色剤、増感剤



クリーニング&メディカル用薬剤

クリーニング店向けの薬剤、医療器具の洗浄剤等

特殊化学品他

合成ゴムやプラスチック素材、電子材料加工時に使用される界面活性剤

売上高

171億6千7百万円 12.7%増

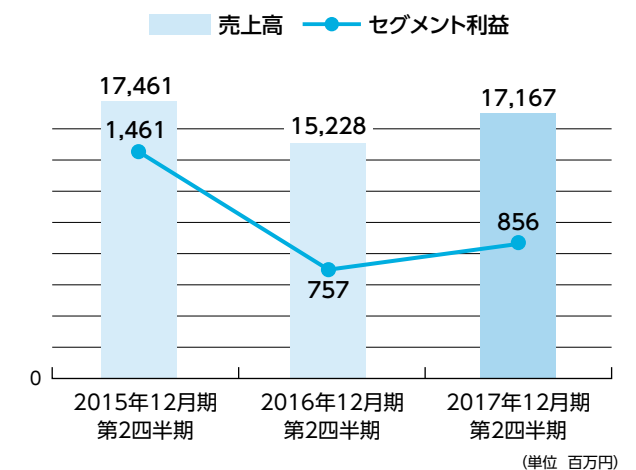
セグメント利益

8億5千6百万円 13.0%増

- 日華化学 製紙用薬剤、非イオン活性剤、機能性樹脂製品の販売好調
- 大智化学産業 半導体ウェハー市場向け製品好調
- 韓国 撥水剤事業好調
- 広州 新興市場の開拓
- ベトナム 新規販売好調

主力である繊維加工用薬剤の新規案件獲得に加え、製紙用薬剤、非イオン活性剤、機能性樹脂製品の販売が堅調に推移したほか、大智化学産業における半導体ウェハー市場向け製品の販売やニッカ コリアにおける撥水剤事業が好調であったことにより、売上高、セグメント利益ともに増加しました。

[売上高・セグメント利益の推移]



化粧品事業



美容室向け髪用化粧品

「デミ」「イーラル」ブランドで、シャンプー、トリートメント等のヘアケア剤等を提供

ODM・OEM

髪用化粧品の相手先ブランド受託生産



一般通販

フェイシャル基礎化粧品ブランド「アンサーージュ」のインターネットによる通信販売

売上高

60億7千9百万円 8.2%増

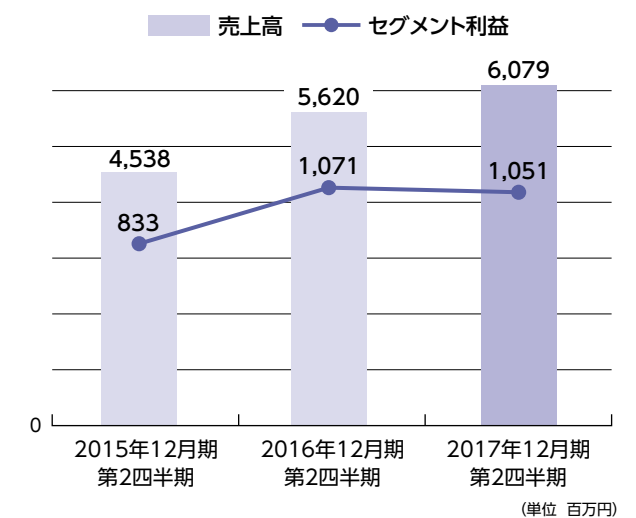
セグメント利益

10億5千1百万円 1.9%減

- 山田製薬 製造受託事業好調
- デミ コリア 引き続き好調
- 国内 デミ 減少

国内美容サロン業界全体の伸び悩みに伴い、デミ コスメティクスやイーラルの販売が苦戦を強いられている一方、山田製薬における化粧品製造受託事業やデミ コリアの販売が引き続き好調であることから、売上高は増加しました。

[売上高・セグメント利益の推移]



※上記はすべて連結の情報です。※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。※%表示は前年同期比です。



え もり やす まさ

江守 康昌

●代表取締役社長

前年同期、業績予想を上回った上半期 新たな事業の芽を下半期以降の成果に。

2017年12月期上半期(1月～6月)の連結業績は国内外における積極的な事業活動が実を結び、前年同期を大きく上回りました。新たな事業の芽も着々と育ち、長期経営計画「INNOVATION25」の目標達成に向け、弾みのつく半期となりました。

代表取締役社長・江守康昌がこの上半期の成果と課題を振り返るとともに、下半期に注力する経営施策について語ります。

上半期は二桁の伸び

上半期は前年同期に比べ、売上高、営業利益、経常利益とも二桁の伸びを達成しました。期初の連結業績予想と比べても、売上高が3.4%増、営業利益が54.3%増、経常利益が57.1%増と、それぞれ目標値を上回ることができました。

売上高に関しては、従来からの主力である繊維加工用薬剤をはじめとする国内化学品事業や、デミ コスメティクス(※1)にとどまらず、販路のグローバル化、機能性にすぐれた新製品の投入、業容の多様化に力を注いできた成果が表れ、堅調に推移しました。また、為替レートが想定より円安に推移したこともプラスに働きました。これに加え、生産効

率の向上やコスト削減の取り組みなどが奏功し、営業利益、経常利益の増加につながりました。

これらの上半期業績を受け、通期の連結業績予想を上方修正しました。具体的には、売上高は10億円増の470億円、営業利益と経常利益はそれぞれ1億円増の17億円を目標値に掲げ、これらの達成に向けて一層の努力を重ねてまいります。

以下、当社の主力である化学品事業と化粧品事業につきまして、上期業績とその要因、今後の課題や取り組みについてご説明いたします。

国内外とも好調の化学品事業

国内では、新開発した製紙用脱墨剤(※2)

が売り上げに貢献しました。近年、紫外線照射で印字定着するUVインクは省エネ対応型として需要が増えています。従来の脱墨剤では対応ができませんでした。当社の新脱墨剤は、UVインクの脱墨を可能にしたことから、全国の製紙工場から多くの引き合いをいただきました。

また、鹿島工場では、さまざまな薬剤などの原料となる非イオン界面活性剤の受託事業が順調に進みました。このほか、有機溶剤を使わず環境への負荷が少ない水系ウレタン(※3)製品が、自動車やIT機器・端末関係で使用される人工皮革用途として好調を維持しました。また、特殊製法の新規ポリエステル樹脂の販売が特殊化学品分野を中心に好調に推移しました。

また、半導体ウェハの生産過程で使われるクレーント剤(※4)を製造する大智化学産業(※5)も業績アップに大きな役割を果たしました。半導体業界が活況を呈していることに加え、日々の営業努力が実り、新規納入も増えています。2015年6月に当社グループの一員に加わったことも、お客様が安心感を覚え、営業の後押しになっているのではないのでしょうか。韓国の半導体ウェハー生産市場への輸出が拡大していることを受け、大智化学産業の製品は今後、ニッカ コリア(※6)でも現地生産し、コストダウンと顧客ニーズへの対応をよりきめ細やかに行える体制を整え、グループとして利益を最大化できるよう努めてまいります。

海外では特に韓国、中国、ベトナムで売り上げが伸びました。このうち韓国では、環境への残存性が危惧されるフッ素化合物をできる限り低減した、または一切含まない新たな撥水剤(※7)の販売が順調に推移しました。中国では国内外のグループの総力を結集して取り組むビッグアカウント(※8)戦略が結実し、福建省などこれまで未開だったマーケットでも実績が出てきました。今年5月には主に製造販売を行う浙江と研究開発を担う上海の子会社を統合、これまで上海に置いていた研究開発機能を移管し、バリュー

チェーンを集約しました(詳しくはP5-6をご覧ください)。このことも営業力強化につながったと考えています。繊維産業が急速に成長しているベトナムでも新規販売が好調でした。当地における子会社のニッカ ベトナムでは新工場が完成し、研究所・ショールームも一新して9月に完成予定です。ベトナム市場は中国や韓国、台湾の繊維企業による投資意欲が旺盛で、ビジネスチャンスはますます拡大しますから、新たに整備した機能をフル活用し、攻勢に拍車を掛ける考えです。

化学品事業では、いくつもの新規事業について事業化の道筋を付けたことも成果と言えるでしょう。その一つ、透過型スクリーン「ディアルミエ」は発売してすぐに数多くの引き合いをいただいています(詳しくはP7-8をご覧ください)。また、超高速遺伝子解析用試薬の販売を推し進めているほか、ナノ合成技術や炭素繊維複合材料分野の薬剤の開発も着々と進んでいます。いずれも業績にはまだほとんど反映されていませんが、将来有望な商材であり、下半期はさらにスピード感を持って収益化を進めてまいります。

化粧品事業は子会社がリード

国内では山田製薬(※9)のOEM・ODM(※10)ビジネス、海外ではデミ コリア(※11)の売り上げが増収に大きく寄与しました。

まず山田製薬では既存の大手顧客からの受注増のほか、地道な営業活動の継続により新規顧客の開拓も進み、売り上げが伸長しました。また、デミ コリアは二桁成長が続いています。品質への高評価に加え、日本と同様にノミネートサロン戦略(※12)の実践がその要因です。韓国国内はヘアカラーブームが継続しており、高品質のヘアカラー剤を供給できていることも業績アップにつながっています。今年7月にはソウル、プサンに続きテジョンにスタジオをオープンしました。テジョンは人口約150万人の科学技術都市で、国策副都心としてますますの発展が見込まれています。スタジオは講習会の開催だ

けでなく美容室に対し撮影会場、会議室などとして使用していただくことも予定しており、一層の販路拡大につなげる考えです。

主力の国内におけるデミの販売では、個人消費の停滞によって美容室業界全体が伸び悩む中、その影響を受け苦戦を強いられましたが、てこ入れ策の一つとして、今年4月には福岡市に「デミ ヘア サイエンス スクエア 福岡」を開設しました(詳細はP10参照)。この拠点を有効に活用して美容室との信頼関係をさらに強化し、九州エリアでのデミ商品の拡販を狙います。

新たな成長を目指して

下半期は業績好調だった分野をさらに強化するとともに、上半期に課題が明らかになった分野については適切に対策を講じ、新たな成長を目指してまいります。

まず、化学品事業では研究開発陣の奮闘により、フッ素フリーでより高い性能を持つ撥水剤が完成しつつあり、いよいよ下半期から拡販が本格化します。フッ素フリー撥水剤へのニーズは世界的に高まっており、新製品の投入が一層の売上拡大につながると期待しています。また、先ほど述べた「ディアルミエ」をはじめ、これまで仕込みを続けてきた新規事業についてもいよいよ収益に貢献するものと期待をかけています。化粧品事業では、国内デミの拡販に向けた起爆剤として、ヘアケアブランド「フローディア」をフルリニューアルし、9月に発売します。今までにないヘアケア理論により前評判が非常に高く、人気ブランドに育てていきたいと考えています。

そして、11月1日にはNICCA イノベーションセンター(NIC)がいよいよ竣工します。化学品・化粧品事業それぞれの開発部門をNICに集結させるとともに、当社の伝統とも言えるホスピタリティを発揮して国内外のビジネスパートナーや技術者、研究者を迎え入れ、協業を通じてイノベーションを巻き起こし、お客様のニーズを満たす新技術や新製

品、将来の経営の柱を担う新規事業の創出につなげていきたいと思っています。

当社は今年、2025年までの長期経営計画「INNOVATION25」を策定したところであり、その達成に向け、2017年から2019年はまず経営基盤を固める3年間と位置づけ、中期経営計画「INNOVATION19」に取り組んでいます。「INNOVATION19」で



NICCA イノベーションセンターのイメージパース

はNICに続き、鹿島工場の第二期工事、海外での生産設備増強も視野に入れるなど、「INNOVATION25」で掲げた目標の達成を目指し、手を緩めることなく戦略的投資に取り組んでまいります。

この上半期の業績は事前予想を上回りましたが、歩みを止めることなく、世界中のお客様から最も信頼されるイノベーション・カンパニーを目指して、全力を注いでまいります。

株主の皆様におかれましては、当社グループの今後の成長に引き続きご期待いただくとともに、変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

用 | 語 | 解 | 説

【※1】デミ コスメティクス／日華化学の化粧品部門が持つ美容室向け頭髮化粧品の総合ブランド。1982年、それまでに培った繊維を洗ったり染めたりする繊維加工用薬剤の技術に応用した頭髮用化粧品の製造・販売をスタート。高い品質やノミネートサロン戦略(※12参照)などにより、日本国内の美容室市場において確固たるポジションを得ています。

【※2】製紙用脱墨剤 古紙をリサイクルする際、紙に印刷されているインキを取り除く「脱墨」と呼ばれる工程で使用する薬剤。

【※3】水系ウレタン／人工皮革、塗料、接着剤などで使用されるウレタン樹脂は、溶剤系、水系に大別されますが、製造工程での作業や環境負荷を低減するために、水系品が強く要望されています。当社独自の技術による高性能な水系のウレタン樹脂は、特に人工皮革用途で圧倒的なシェアを誇っています。

【※4】クレーント剤／半導体ウェハーなどの生産加工で、切断や研磨の際の摩擦を抑える薬剤。以前は油系が主流でしたが、作業環境の悪化をもたらしたり、引火性などの問題点があったため、当社子会社の大智化学産業(※5参照)が約17年前に他社に先駆けて水系製品を開発しました。

【※5】大智化学産業 1966(昭和41)年創業(本社:東京都中央区)。2015年に当社が買収した100%子会社で、半導体ウェハーなどの加工用水溶性クレーント剤のトップメーカーです。

【※6】ニッカ コリア 1971(昭和46)年、韓国に設立した子会社で、撥水剤・撥油剤といった撥剤で高い市場シェアを誇ります。

【※7】撥水剤 繊維加工工程の中で、繊維に水分をはじく機能性を付与する加工薬剤。

【※8】ビッグアカウント 当社がターゲットとしている超大手繊維加工製造業。世界的に有名なファッション／スポーツパレル企業からの受注が集中しており、大規模な工場で生産・加工し世界市場に供給しています。

【※9】山田製薬／1910(明治43)年創業(本社:東京都中央区)。1995年に当社が買収した100%子会社。ヘアケア、スキンケア、口腔ケア、消毒剤等の受託製造販売を手がけており、霞ヶ浦工場は当社グループ化粧品事業の第二工場としての役割も担っています。

【※10】ODM Original Design Manufacturingの略で、相手先のブランドで当社が製品設計から製造まで担当すること。

【※11】デミ コリア 2012(平成24)年、韓国に設立した100%子会社。韓国の美容室市場でデミ コスメティクス商品を販売しています。

【※12】ノミネートサロン戦略 デミ コスメティクスが手がける販売戦略で、当社が商品を使っていたきたいと思う繁盛サロン(美容室)や成長性の高いサロンを能動的に選定(ノミネート)し、新規納入や取引額増につなげています。



リ しょう ち
李 晶 日 ●取締役執行役員中国事業統括 日華化学(中国)有限公司総経理

日華化学初の外国人取締役が誕生。 中国戦略をさらに加速し、売上倍増を目指す。

3月28日に開催された第103期定時株主総会において、日華化学初の外国人取締役が誕生しました。新たに取締役に就任した李晶日は、1964年生まれの52歳。福井大学大学院工学研究科を卒業後、1993年に入社。以来、中国における主要事業拠点の浙江日華化学有限公司(※1)副総経理などを経て2013年には執行役員に就任し、中国での繊維加工産業向け化学品ビジネスを最前線で牽引してきました。

また、研究開発から生産販売までの一貫体制を整え、さらなる効率化を図るため、5月、日華化学研発(上海)有限公司(※2)の研究開発機能を移管させ、浙江日華化学有限公司の商号を「日華化学(中国)有限公司」に変更しました。中国へのアプローチをさらに強化していく当社のこれからの、取締役・日華化学(中国)有限公司総経理の李晶日に聞きました。

中国ビジネスの現状

——中国での事業の現状について教えてください。

当社にとって、中国でのビジネスは非常に重要なものとして位置づけられてきました。1988年に香港(当時は英領)に合弁会社を設立したのを皮切りに、90年代には広州と杭州、2002年には浙江に現地法人、上海には研究開発法人を設立するなど、約30年にわたって中国での事業を積極的に展開してきました。2016年には中国市場での売上は61億円となり、リーマンショック後の2009年からの7年間で57%の伸びを達成しました。

現在、我々が中国で販売している製品は、繊維加工用薬剤がメインとなっています。中国は世界最大の繊維産業の集積地で、中でも、ポリエステルなど合成繊維の生産シェアは全世界の6割以上を占めており、生産量も年々増加を続けています。繊維加工には、紡績から製織、精練から染色、仕上げに至るまで何段階もの工程がありますが、我々はそれらすべての工程に対して多様な薬剤を自社開発のうえ製造販売できる数少ない化学品メーカーです。

また、金属加工や製紙業界向けの薬剤も

手がけていますが、繊維加工用薬剤と比べその比率はまだまだ小さいのが現状です。これらの産業も中国では年々急速に伸びており、我々としても大きな可能性を秘める市場として注目しています。

また頭髮化粧品事業においても2011年にデミ北京(DEMI BEIJING INTERNATIONAL TRADING)を設立し、中国で展開しています。

——中国市場へのアプローチで大切なことは？

私は入社以来、四半世紀にわたり一貫して中国およびASEAN諸国でのビジネスに、主に営業の最前線で関わってきました。そこで実感したのは、ナショナルスタッフ(現地法人雇用の社員)の重要性です。国や地域によって商習慣や文化は大きく異なりますが、ビジネスを成功させるためには、言語はいうに及ばずこれら風習や文化への理解は欠かすことができません。特に当社のように、お客様に密着し、技術的なコンサルティングを行いながら製品をカスタマイズし販売していく企業にとって、優秀なナショナルスタッフの存在が何より大切です。もちろん、本社から出向している社員との連携が不可欠であることは言うまでもありません。当社が目指すグローバルな事業展開のためには、いろいろな国の人が活躍できる会社であらねばならないと思います。

中国の経済と市場の動き

——今後の中国経済の動きをどのように見えていますか？

中国経済はおそらく今後も6～7%程度の

GDP成長を続けていくと考えられますが、この1～2年間で企業経営を取り巻く状況にとっても大きな変化が訪れています。そのキーワードは「環境」です。

中国では今、急激な経済成長がひと段落し、産業の重心は鉄鋼や石油化学からハイテクへとシフトしつつあります。インフラ整備での素材需要がピークを越えたこともあり、中国政府はエネルギー多消費型の重厚長大産業を抑制する政策を進めています。その影響は、かつて大きな問題となった微小粒子状物質「PM2.5」による大気汚染が劇的に改善しつつあることにも現れています。

また、政府は環境関連法規の遵守に力を入れており、環境関連産業の育成にも力を注いでいます。つまり、高度成長期を終えた1980年代の日本社会と同じような動きが、国家の強力な指導体制の下に進められているのです。「環境」は、これからの中国の産業・経済や、消費者のニーズを考える上で、極めて重要なファクターとなっています。

——その動きを事業にどう生かしていくお考えですか？

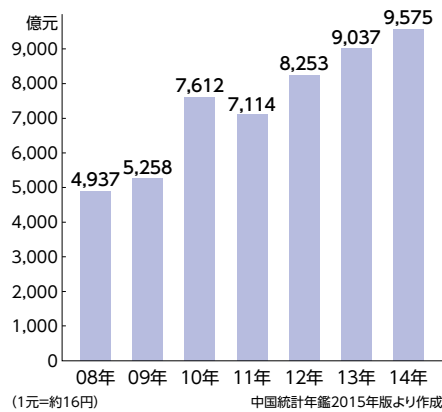
我々のお客様である繊維加工産業は、水や熱(石油)を大量に用いるエネルギー多消費型産業のひとつです。また、スポーツ衣料などに多く用いられている「撥水」加工には、環境残留懸念がある有機フッ素化合物が使われるほか、環境に影響を与えかねないさまざまな物質が使われてきました。こうした諸問題への有効な解決策となる製品や技術を提供していくところに、我々にとっての大きなビジネスチャンスがあると考えていま

す。

まず、環境への影響が少ない薬剤の提供として、撥水剤ではフッ素フリー系薬剤への大きなトレンドが中国にも起きており、業界をリードする製品の拡販を進めています。また繊維加工用薬剤や塗料などとして広く用いられているウレタン樹脂では、有機溶剤を用いない「水系ウレタン」への転換を提案することで、既存市場のシェア拡大に取り組んでいます。

次に、繊維加工産業への省エネ化提案では、当社はすでに精練や染色などの工程で使われる水の量を3分の1にまで削減できる工程薬剤(※3)で注目を集めています。他にも、これまで130℃まで加熱する必要があった染色工程において、場合によっては

■中国における環境汚染対応投資総額の推移



110℃程度でも同様の結果を得られる薬剤を開発し、特許も取得したうえで販売しています。実効性のある省エネのためには、これら薬剤の開発以外にも丁寧なコンサルティングと工場での使用法などの技術サービス、製品のカスタマイズなどが必要であり、これらお客様に密着した高度なソリューションの提供は当社の最も得意とするところです。

——規制によって新しい市場が誕生することもあると聞きました。

はい。例えば建築に対する法規制が強化されています。これを受け、繊維加工用薬剤の分野では、住宅用の壁紙やカーテンな

どインテリア用品に対する防災対策が強化されたため、「難燃加工」という市場が急速に拡大しています。こうした細かな法規制の変化を捉え、そこから生まれるニーズを汲み取りマーケット対応していくためには、やはりその国に生まれ育ち、市場動向や消費性向・商習慣にも精通しながら、高い技術力を持ったナショナルスタッフの存在が欠かせません。こうした課題に対応していけるとともに、日本の技術力を踏まえグローバルに展開できる当社の強みが現れていると思います。

中国の拠点を一部統合し、2025年には売上を2倍に

——中国事業の展望は？

繊維産業においては、人件費の高騰や環境規制などによって基本的な繊維加工はASEANやバングラデシュ、インドなどへと移っていくでしょう。高付加価値加工は残り続けるでしょう。将来においても中国は、世界最大の繊維の生産・加工国であり、同時に最大の消費市場であることに変わりはないと考えます。

我々はこの中国市場に対し、「環境」を軸にアプローチし、「省エネ・時短・低温加工」「新素材対応」「機能性加工」といった高付加価値加工市場でトップを狙っていく「ニッチトップ戦略」を加速させていきます。その布石として、管理コストの削減と顧客対応力強化、そして研究開発から生産販売を一貫して行えるよう、日華化学研発(上海)の研究開発機能を移管させ、浙江日華化学の商号を「日華化学(中国)」に変更しました。これにより、研究と生産が別会社だった従来と比べ、「研究開発・生産・販売」の一貫体制が整ったことで経営効率が高まり、また、より充実したソリューションとサービスを提供できるようになりました。これを機に、繊維産業の一大集積地でありながらこれまで十分にはカバーしてこられなかった福建省へも積極的にアプローチしていきます。福建省の市場でも「環境」へのニーズが急速に拡大しており、これまで培ってきた当社のノウ

■中国における日華化学の拠点



ハウとこのたびの研究機能移管は、新マーケット開拓の大きな武器となると確信しています。さらに冒頭に申し上げたように、金属加工や製紙業など繊維産業以外の加工用薬剤や化粧品分野の開拓にも、研究リソースの効率的な運用は有効に機能してくれるものと考えます。

こうした一連の展開によって、8年後となる中長期経営計画最終年の2025年には現在の中国における売上を2倍にし、また現在10%程度に過ぎない繊維加工用薬剤事業以外の売上比率を25%にまで高め、これらを通し中国全土に通用するような「NICCAブランド」の構築を狙います。

——新取締役としての抱負を教えてください。

当社は現在、8つの国と地域で12の拠点を展開するグローバル企業であり、それぞれの人々や文化が混在するマルチナショナルな企業です。当社の強みは、何よりも人種や性別、文化の違いを越え、お客様と社会に貢献し社員の幸福を実現するというひとつの理念を共有しているところにあります。

今回の私の取締役就任が、いろいろな国の人々が共存する「多様性＝ダイバーシティ」を大切にしている当社のモデルケースになることを願っています。後に続く人たちに、私の存在がひとつの目標になれば幸いです。

用 語 解 説

【※1】浙江日華化学有限公司／2002(平成14)年、中国・浙江省杭州市に設立した、当社子会社。中国市場において薬剤の製造販売を主に手がけ、一部研究開発も行っています。本年、日華化学(中国)有限公司に商号を変更しました。

【※2】日華化学研発(上海)有限公司／2002(平成14)年、中国・上海市に設立。繊維加工、化学等に関する技術コンサルティングサービス及び研究開発を目的とした当社子会社で、2009年に現在の名称に改称しました。

【※3】工程薬剤／繊維の加工工程の中でも精練・漂白・染色等の基本的工程で使用される薬剤。一方、撥水、抗菌、難燃など繊維に機能性を付与する工程において使用される薬剤を機能薬剤といいます。当社グループは、これらすべての繊維加工工程で使用される薬剤を製造販売している点が強みのひとつです。

日華化学が初めて製品化に成功

ナノダイヤモンド系プロジェクター用透過型スクリーン

DiaLumie[®] ●ディアルミエ

鮮明な映像を360°の広視野角で実現、サイン&ディスプレイ市場へ参入。

日華化学では、新規事業のひとつとして開発を進めてきた「ナノダイヤモンド」を使ったプロジェクター用透過型スクリーンの製品化に成功し、2017年6月より販売を開始しました。これはダイヤモンドの特性と日華化学独自の分散技術により、従来品では難しかった「高い透過性を保ちながら高鮮明な映像を映し出す」という、相反する技術の両立に成功したものです。新発表の場として出展した同月の展示会では、予想以上の高評価を得て、早くも注目を集めつつあります。これを機に多様な演出ができる画期的な製品として、サイン&ディスプレイ市場へ新規参入していきます。期待高まるこの事業を担うメンバーに話を聞きました。



特殊化学品本部 新規事業開拓部

●ナノダイヤ事業担当
齋藤 一●ナノダイヤ開発担当
北本 隆志●ナノダイヤプロモーション担当
下野 明美

透過性と高鮮明の両立を追求

今回、新規開発した「ディアルミエ」は、ダイヤモンドの特性を生かし、当社が繊維加工用薬剤などの研究開発で培ってきた分散技術を応用してきた、映像表示用の透過型スクリーンです。

透過型スクリーンとは、プロジェクターからの投影画像を反対側からも見ることができるものです。従来品には、透明度の高いものから不透明なものまでバリエーションがありましたが、私たちは、両立が困難とされていた“透明でありながら、鮮明性に優れたもの”を追求し、そのバランスはトップクラスともいえる製品化に成功いたしました。



リア面から投影した映像を前方からも鮮明に見ることができる「ディアルミエ」。写真は超短焦点型プロジェクターを使用

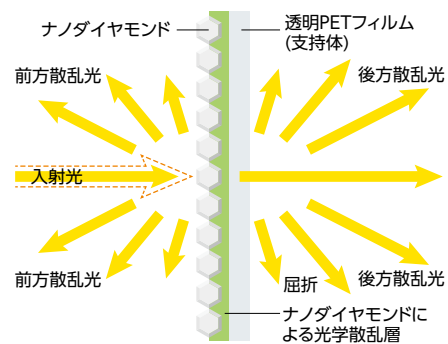
360°どこからでも映像が見える

「ディアルミエ」の第1の特長は、スクリーンの「透過性が高いこと」で、スクリーンの向こ

う側が透けて見えるため、空間に映像が浮かんでいるような演出が可能となります。

第2の特長は「360°の広視野角で、明るく鮮明に見えること」。ダイヤモンドには強いきらめきがありますが、これは“高い屈折率”と“高い光散乱性”という特性によるものです。同様に、微粒子化されたナノダイヤモンドを塗布したスクリーンでも、その面を通過する際に入射光が屈折して前方や後方へと散乱するため、どの角度からも同じ明るさで鮮やかに見ることができるのです。

■ナノダイヤモンドスクリーンの原理と特長



入射光に対して全方向に光を放つため、360°の広視野角が実現

第3の特長は、「光源の入射角度を問わないこと」。正面から投影する一般的なプロジェクターはもちろん、スクリーンまでの距離が短くても投影できる短焦点・超短焦点型にも対応しており、リア・天井・床面からといったどの角度からでも映し出すことができます。さらに液晶、DLP、レーザーなどの方式も問わず、市販品のほとんどのタイプに対応します。

第4の特長は、フィルム状なので「曲面にも施工できること」で、平面同様360°鮮やかに映像を映し出すため、演出の多様性が提案できます。



広視野角を誇り、曲面への施工も可能

当社の技術を駆使した製品

「ディアルミエ」の開発は、約3年前にスタートしました。当社のコアコンピタンスである界面科学技術(※1)を生かせる新事業領域の開拓に取り組み始め、ナノ材料全般を探索していました。

「ナノ」とは10億分の1ミリメートルの単位で、ある物質がナノサイズの状態では1グラムあったとすれば、その表面積の合計は同じ質量の個体よりも遥かに大きくなります。つまり細かければ細かいほど、それだけ多くの「界面」が生じるため、当社の技術を最大限生かすことができるのです。

その中で、我々はナノダイヤモンドの情報を得て、着目いたしました。ナノダイヤモンドは

1980年代後半から工業的に生産され、今日ではロシアや中国を中心に、米国、東欧諸国や日本でも作られています。鋼鉄製の反応容器の中で、原料となるグラファイトなど炭素材料を含む爆薬を爆発させ、その衝撃波から生じる高温・高圧により、ナノダイヤモンド(一粒の粒子径が4~6ナノメートル)の凝集体が得られます。その凝集体を適度な小ささにサイズコントロールして、安全性の高い水系樹脂に分散させた塗工液を調製し、それを高透明な光学用PETフィルム(支持体)の表面に均一に薄膜コーティングして皮膜化させたものが「ディアルミエ」の基本構造です。

2年にわたる研究の結果発売へ

製品開発にあたって特に苦労したのは、ナノダイヤモンド分散液の開発でした。理想とする透過性・高鮮明性を両立させるため、当社の持つ分散技術の中の“微粒子化”という技術を活用しながら、多様なパターンのプロトタイプを作り、トライアンドエラーを繰り返しました。

さらに量産化に向けて、フィルムへのウェットコーティング技術(※2)にも挑み、約2年にわたる試行錯誤を経てようやく製品化に成功し、6月から販売をスタートいたしました。

展示会で高評価を得る

そして新発売PRの場として、6月に東京ビッグサイトで開催された「第3回先端コンテンツテクノロジー展」に出展いたしました。この展示会はメディアやクリエイター、エンター



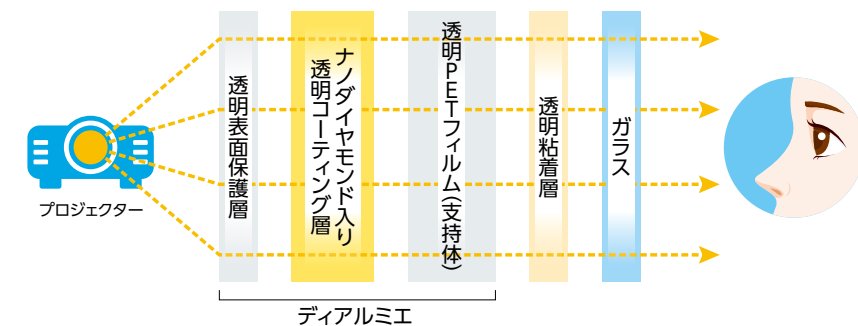
通常の展示



「ディアルミエ」を設置した場合

恐竜の骨格標本に動画を合わせれば、さらに迫力のある演出が可能(撮影協力：福井県立恐竜博物館)

■ディアルミエをガラス面に貼った構造イメージ



テイメント、広告代理店などの業界や、企業・団体をターゲットとして、最新の表現・演出技術が一堂に集まる場で、商談の場としても絶好の機会でした。

当社にとっては、この業界には初出展ということもあり苦労点多々ありましたが、非日常的で驚きのある空間が演出でき、数あるブースのなかでも多くの来場者にお越しいただけました。また、スクリーンの美しさや演出に感嘆の声もあり、手応えを感じることができました。

展示会中から多数の問い合わせが寄せられ、発売後すぐに受注が決まるなど、高評価をいただいています。

多様な空間演出品として提案

透過型スクリーンは、ショップの窓ガラスを夜間は広告映像を映し出すショーウィンドウにするなど、すでに商業用ディスプレイとして活用されています。そのなかで私たちは、「ディアルミエ」の“透過性がありながら高鮮明”という特長を生かした提案をしています。例えばミュージアムでは、展示物の前にスクリーンを置いて映像とコラボレーションさせる

ことで、迫力のある見せ方も可能になります。

このような一歩進んだ活用ができる「ディアルミエ」で、数多くの人が集まるスタジアムやライブ会場、イベントやショールームなど、あらゆるビジュアルシーンを美しく効果的に演出し、サイン&ディスプレイ市場における地位を確立させていきます。また2020年の東京五輪・パラリンピックに向けた、デジタルサイネージ(※3)の需要増にも期待できます。

広がる新たな世界

「ディアルミエ」は、生産工程で使われる薬剤など中間材をメイン商材としてきた当社にとって、新たな分野へ参入する製品となりました。今後はさらに販売チャネルを開拓しながら拡販を図っていく考えで、2020年以降をめどに年間売上高5~10億を目指します。

また今回の商品はナノダイヤモンドの「光学的特性」に着目しましたが、今後はダイヤモンドの「熱伝導性の高さ」や「硬度」など、他の特性を生かす製品開発にも取り組んでいく考えです。どうぞご期待ください。

用語解説

【※1】界面科学技術／互いに性質の異なる2つの物質が接する境界面を、浸透・分散・乳化などの現象で制御する技術。当社はこの技術を用いて、繊維加工用薬剤をはじめとするさまざまな製品を生み出してきました。

【※2】ウェットコーティング技術／水に溶解または分散させた原料を、ベースとなるPETフィルム上にコーティングする技術。

【※3】デジタルサイネージ／屋内外や店頭、公共施設や交通機関などで、看板やポスターなどを電子化して発信する映像表示装置。

連結貸借対照表

(単位:百万円)			
科 目	当第2四半期 (2017年6月30日現在)	前連結会計年度 (2016年12月31日現在)	増減
(資産の部)			
流動資産	24,967	26,448	△1,481
現金及び預金	6,219	5,882	
受取手形及び売掛金	9,784	11,029	
商品及び製品	3,586	3,977	
仕掛品	616	717	
原材料及び貯蔵品	3,027	3,089	
その他	1,759	1,794	
貸倒引当金	△26	△42	
固定資産	24,881	24,131	749
有形固定資産	20,814	19,897	916
建物及び構築物(純額)	9,249	9,518	
機械装置及び運搬具(純額)	2,463	2,214	
土 地	6,365	6,231	
その他(純額)	2,735	1,932	
無形固定資産	641	733	△92
投資その他の資産	3,425	3,500	△74
資産合計	49,849	50,580	△731

連結損益計算書

(単位:百万円)			
科 目	当第2四半期 (2017年1月1日～ 2017年6月30日)	前第2四半期 (2016年1月1日～ 2016年6月30日)	増減
売上高	23,414	20,966	2,448
売上原価	15,855	13,538	2,317
売上総利益	7,558	7,428	130
販管費及び一般管理費	6,482	6,545	△63
営業利益	1,076	882	194
営業外収益合計	212	215	△3
営業外費用合計	189	267	△78
経常利益	1,099	831	268
特別利益合計	108	1	107
特別損失合計	37	31	6
税金等調整前四半期純利益	1,170	801	369
法人税等合計	506	291	215
四半期純利益	664	510	154
非支配株主に帰属する四半期純利益	92	107	△15
親会社株主に帰属する四半期純利益	571	402	169

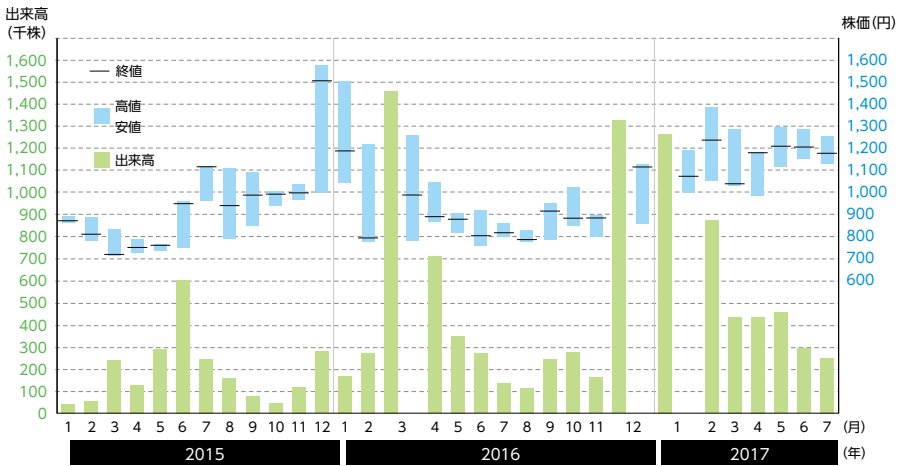
連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)			
区 分	当第2四半期 (2017年1月1日～ 2017年6月30日)	前第2四半期 (2016年1月1日～ 2016年6月30日)	増減
営業活動によるキャッシュフロー	1,986	△1,322	3,308
投資活動によるキャッシュフロー	△1,691	△1,496	△195
財務活動によるキャッシュフロー	130	657	△527
現金及び現金同等物の期末残高	6,219	4,729	1,490

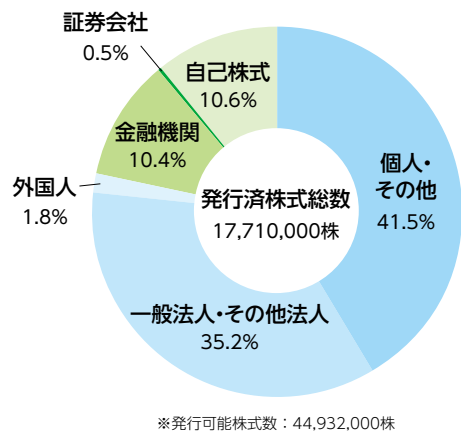
株式の状況 (2017年6月30日現在)

- 株主数：2,349名
- 所有者別分布状況

●株価の推移

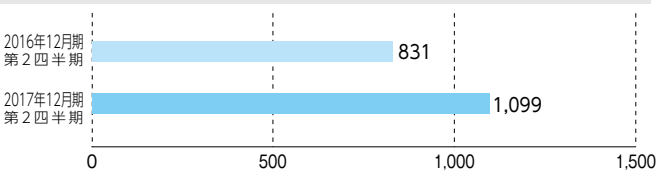


※2015年12月25日以降の出来高は、東証と名証を合わせた情報を掲載しています。
なお、終値は東証の終値を掲載しています。

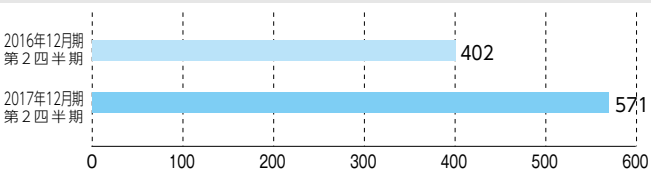


(単位:百万円)			
科 目	当第2四半期 (2017年6月30日現在)	前連結会計年度 (2016年12月31日現在)	増減
(負債の部)			
流動負債	23,722	24,614	△892
支払手形及び買掛金	4,477	5,310	
短期借入金	15,925	15,264	
未払法人税等	309	279	
買与引当金	528	631	
その他	2,481	3,128	
固定負債	6,379	6,549	△170
長期借入金	1,940	2,135	
退職給付に係る負債	3,103	3,086	
厚生年金基金解散損失引当金	494	494	
その他	840	832	
負債合計	30,101	31,163	△1,062
(純資産の部)			
株主資本	17,021	16,606	415
その他包括利益累計額	253	251	2
非支配株主持分	2,472	2,558	△86
純資産合計	19,747	19,417	330
負債純資産合計	49,849	50,580	△731

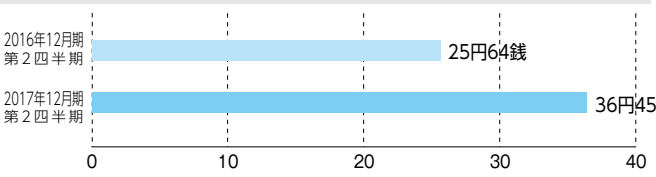
経常利益の推移



親会社株主に帰属する四半期純利益の推移



1株当たり四半期純利益の推移



※売上高と営業利益の推移につきましては、P1に記載しております。

環境対応型の繊維加工用薬剤を世界にアピール

当社グループは昨年に引き続き、世界最大級の国際スポーツ・アウトドアアパレル・用品の業界向け展示会「ISPOミュンヘン2017」(2月/ドイツ・ミュンヘン)および、染料・顔料・繊維用化学品の展示会「China Interdye2017」(4月/中国・上海)に出展しました。ISPOでは、環境対応型フッ素フリー耐久撥水剤の新製品をはじめ、繊維加工プロセスを併せた最新技術「NEOSEED® SYSTEM」を、China Interdyeでは、最新型染色助剤「NICCA SUNSOLT LM-850」やbluesign®※認証登録製品等を紹介し、両展示会ともブースに来られた繊維業界関係者から高い注目を集めました。

近年、欧米を中心とした世界的スポーツアパレルメーカーや大手アパレルメーカーが、サプライチェーンからの有害化学物質の使用・排出ゼロに向けて動いており、撥水等の機能性が高い加工品質の実現だけでなく、環境に優しい薬剤への要望が強くなっています。今後も世界的にニーズが高まる環境配慮型の薬剤をアピールすることで、世界No.1の繊維加工用薬剤メーカーを目指してまいります。

福井国体の有力選手3名を採用

来年、福井県にて「福井しあわせ元気国体2018」が開催されます。そのオフィシャルスポンサーの一社である当社では、県と県内企業が、当国体で福井県代表としての活躍を期待する選手たちのUターン・Iターン就職を支援する活動「スポジョブふくい」により、今年4月、女子ハンドボール競技の選手3名を新卒採用いたしました。

彼女たちは、スポーツで培ったコミュニケーション力を生かし、職場では日々の業務に取り組む一方で、福井県代表チーム選手としての練習にも励んでいます。8月に開催された、全国予選を勝ち抜いてきた各地区代表の16チームによる「第22回ジャパンオーブントーナメント(福井国体プレ大会)」では3選手とも活躍。準優勝という結果を残し、今後がさらに期待されます。

当社は、国体開催県の地元企業として地域貢献を果たすべく、この活動を通じて当国体を盛り上げてまいります。



当社ブース(上)ISPOミュンヘン(下)China Interdye
※bluesign®(ブルーサイン):スイスに本部をおく繊維業界における製造過程での環境や人への安全性を認証する機関。当社は2013年10月に日本で初めて取得。



福井県代表チームの選手として活躍する3名

「デミ ヘア サイエンス スクエア 福岡」開設 及び 福岡営業所移転

4月、化粧品事業「デミ コスメティクス」の新拠点として、九州における美容の中心地である福岡市天神地区に「デミ ヘア サイエンス スクエア 福岡」を開設。併せて、既存の福岡営業所も同所に移転いたしました。

「デミ ヘア サイエンス スクエア」は、シャンプー台やセット面など美容室同様の設備・備品や講習スペースを揃えており、お客様である美容室からのリアルタイムな情報・要望を受け入れる場、また当社からの「毛髪科学理論」「ヘアケア理論」等お客様に必要な情報のタイムリーな発信の場として、2002年にトップレベルの美容室が集まる東京・南青山に開設し、その後大阪、名古屋と順次開設してまいりました。今回、関東・近畿・東海地区に次いで大きな市場である九州地区での業容拡大を目的に、「デミ ヘア サイエンス スクエア 福岡」を開設し、さらに営業拠点としての福岡営業所を移転併設することで、美容室とのさらなる信頼関係づくりを行い、美容業界の発展に貢献してまいります。



フルフラットタイプのシャンプー台設備



約40名収容の講習スペース

香港日華化学有限公司 ダッカリエゾンオフィス移転

6月、当社子会社の香港日華化学有限公司のバングラデシュにおける駐在所「ダッカリエゾンオフィス」を、交通面での利便性向上を目的にダッカ市内の商業地区へと移転いたしました。

バングラデシュは、近年、繊維産業を中心に西南アジア圏で世界の繊維産業の中心国としてその存在感を増してきており、アパレル(衣類)製品輸出国としては世界で第2位となっています。豊富な若い労働力と、縫製品を作るうえで有利といわれる手先が器用な国民性の特徴で、安価な人件費とエネルギーコストを生かし、労働集約型の繊維産業が急速に成長を遂げてきました。

同オフィスは、繊維加工用薬剤のバングラデシュでのさらなる市場開拓・事業拡大を目指し、2014年8月に設立以来、売上高を順調に伸ばしています。

この移転を機に、日本からの出向社員と現地スタッフを含む6人体制で、顧客や代理店とのさらなるコミュニケーション向上を図ってまいります。

